札幌市議会議長
　畑瀬　幸二　様

「敬老優待乗車証」の負担増に反対する陳情書

年　　月　　日

団体名
代表者　　印
住　所
連絡先

陳情要旨

敬老優待乗車証の利用上限引き上げによる、利用者負担割合を上げないでください

陳情理由

（１）市は２００９年からの敬老優待乗車証の利用上限額を、現行の５万円から７万円に引き上げるとことを決めました。ところが１０月の市議会で公表された案では、利用上限を引き上げると同時に、利用者負担を６万円カードでは２３％・１３，８００円、７万円のカードでは２５％・１７，５００円にするというものです。

市長は２００７年の選挙で、利用上限額の引き上げを公約しましたが、それに伴う自己負担増は公約で何も言っていません。「負担上の限は２０％」と思っていたという高齢者は多く、１１月１４日に行われた市の説明会でも「市長選挙の公約で利用額を上げることは聞いたが、負担も上げるなど聞いていない」という声も出ていたほどです。公約にもない利用者負担増はやめるべきです。

（２）敬老優待乗車証は「多年にわたり社会の発展に寄与してきた高齢者を敬愛し、明るく豊かな老後の生活の充実を図るため，高齢者に対し、敬老優待乗車証を交付する」として、高齢者の「外出支援、社会参加の促進」などを目的としています。しかし、負担が大きくなれば利用したくてもできない人が増えてしまいます。

多くの高齢者の暮らしは、年金が上がらない中で医療・介護保険料や税金などの公的負担が増え、最近の物価高・灯油高などできびしい生活を余儀なくされています。また、敬老優待乗車証は通院・買い物など生活のためにほとんどの高齢者が利用しています。生活における必要度は、高齢者の所得の高さと必ずしも一致しないため、高額の乗車証を希望しても所得の低い人にとっては手に入れられないのが実情です。

現状でさえ我慢をしている人が多い中で、これ以上の負担を増やすことはやめてください。少なくとも現行の最高負担割合を上げないでください。

以上